

BECC JAPAN 2022 発表要項 — ポスター発表者の皆様

BECC JAPAN 2022 開催にあたり、7月28日(木)本会議の発表詳細について、下記の通りご案内いたします。

1. 会場について

- 本年は、Zoom ミーティングを使用した完全オンライン開催となります。
- 会場の参加 URL および入室の際のパスワードは、7月25日(月)までにご案内いたします。

2. ポスター発表セッションについて

- ポスター発表セッションは、Zoom ミーティングのブレイクアウトルームの機能を用いて行います。
- 各ルームには、『【発表番号】お名前(ご所属)』のように名前を付け、割り振らせていただきます。
- セッション開始5分前までに、ブレイクアウトルーム機能を選択し、ご自身の発表番号に対応する会場(ルーム)にご入室ください。ご入室後は画面共有を行った状態でセッション開始をお待ちください。運営側で画面共有が行われている事をもって入室確認とさせていただきます。



- ルームにご入室される際は、表示名を『【発表番号】お名前(ご所属)』の書式に設定していただきますようお願いいたします(例：【P-1】住環太郎(住環境計画研究所))。

3. 発表資料について

- ご発表時にご使用いただく資料につきましては、ファイル形式・サイズ等の指定はございません。
※参加者から見やすいレイアウトを考慮していただけますと幸いです。

4. 発表資料の公開について

①事前公開

- 本会議の約一週間前から、BECC JAPAN の Web サイトに参加登録者限定で公開いたします。
- ご提出いただける場合は、7月15日(金)までに info@seeb.jp 宛にお送りいただけますようお願いいたします。
- 7月16日以降もご提出は受付させていただきますが、本会議までに公開ページへの掲載が間に合わない場合がございます。何卒ご了承ください。
- 例年、事前公開に関しては口頭発表・ライトニング発表の方のみをお願いしておりましたが、本年はポスター発表者の皆様にもお願いしております。

②当日公開

- 本会議当日は、以下の2つの形式で実施いたします。
 - 1) ブレイクアウトルームでのご発表(10:40~11:40)
 - 2) web上でのポスターデータ展示および専用フォームを設置しての質疑受付(終日)
- 専用フォームより受け付けた質疑につきましては、後日テキストベースでご回答をお願いさせていただきます。こちらの内容は、参加者限定公開でBECC JAPANのwebサイトに掲載予定です。
- 当日公開用資料は、ポスター発表いただく皆様にご提出をお願いいたします。
※事前公開用に資料をお送りいただいた場合は、そちらの資料をそのまま当日公開用にも使用させていただきます。差し替えが必要な場合は別途お送りください。
- ご用意いただいた資料データは、7月24日(日)までにinfo@seeb.jp宛にお送りください。データはPDF形式としていただけますようお願いいたします。

③事後公開

- 会議終了後、会議当日の発表資料と一部異なるものでも構わないことを前提として、BECC JAPANのWebサイトで公開させていただきます(開催後半年ほどを参加登録者限定公開、のちに一般公開)。
 - 詳細は、会議終了後にあらためてご案内いたします。
- ※ 資料の公開が難しい場合は別途ご相談ください。

5. 発表の方法・質疑応答について

- 個々のルームにファシリテーターは付きませんので、発表者自身の判断で説明と質疑を自由に繰り返し実施してください。
- 随時聴講者が入れ替わりますので、その点に留意して説明や議論を進めてください。1回の説明を10分以上続けると対話の機会が減るだけでなく、説明の途中に入室した聴講者は理解し難くなることがあります。例えば、1~2分でポイントを説明して、あとは質問に応じて詳細に説明するなどの工夫をお願いします。
- 画面を閲覧しているだけではコミュニケーションがとりにくいので、積極的に「説明しましょうか?」「質問があったらお声かけください」等、声をかけてください。
- 15分ごとに事務局より全体に向けてテキストでアナウンスを流しますので、時間配分の目安としてください。
- 質疑応答は、基本的に口頭で行っていただきます。一般の参加者にはZoomの挙手機能を使用して、発表者の方から指名がありましたら口頭でご質問いただくように案内する予定です。
- ただし、参加者が多いなどの場合、参加者はコメントや質問をチャットに記入することも予想されるため、質疑応答の形式は各ルーム内で適宜、進めやすい形式にご変更のうえ進行していただいても構いません。

6. セッション終了後について

- セッション終了時刻になりましたら、事務局より全体に向けてテキストでアナウンスを流します。
- その後、5分程度の余裕を持ちましてブレイクアウトルームを閉じさせていただきます（発表者の皆様含め、ブレイクアウトルーム内にいた参加者は自動でメインルームに戻ります）。
- 以降は、表示名から『【発表番号】』を外していただきますようお願いいたします。

7. 不慮の事態の対処について

- 発表中にインターネット環境が不安定になるなどし、会場から退室してしまった場合は、ご自身の会場に再入室後、ご自身で画面共有を行い発表を再開していただきますようお願いいたします。
- 発表中、カメラ・マイク・画面共有の不調や、参加者による迷惑行為のような不慮の事態が発生した場合は、下記いずれかの方法で事務局までお知らせください。
 - ▶ 各ルームを巡回している事務局スタッフ（表示名の頭に『【事務局】』をつけています）、もしくは住環境計画研究所所員にお声掛けいただく
 - ▶ ブレイクアウトルーム内での下部メニューより『ヘルプ>ホストに助けを求める』をクリックし、事務局スタッフを呼びだしていただく（※ヘルプメニューは表示が省略されている場合があります）

8. 事前の環境テストについて

- 本会議の1週間前（7/21・22の午後を予定）に、事前の環境テストを実施予定です。
- 本番当日と同様の環境下で、ブレイクアウトルームへの入室・マイク・カメラ・画面共有のテストを行っていただけます。こちらについての詳細は、別途ご案内いたします。

9. 当日の緊急時等連絡先

- 事務局連絡先
池田：080-7027-0969

以上

気候変動・省エネルギー行動会議 事務局
〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 3-29
紀尾井町アークビル 3 階 (株)住環境計画研究所内
担当：森、池田
Tel:03-3234-1177 / Email:info@seeb.jp

■ 本会議 2022年7月28日(木) オンライン開催

時間	プログラム	
9:00~9:30 (30分)	開会挨拶・来賓挨拶	
9:30~10:30 (60分)	基調講演(発表・質疑応答含む)	
10:30~10:40	休憩(10分)	
10:40~11:40 (60分)	ポスター発表セッション	
11:40~12:10	休憩(30分)	ランチ休憩(100分)
12:10~13:10 (60分)	スポンサーセッション	
13:10~13:20	休憩(10分)	
	ルーム A	ルーム B
13:20~14:20 (60分)	<u>A1 口頭発表セッション①</u> “スマートタウン/DR” ※20分/件×3件	<u>B1 口頭発表セッション②</u> “サステナブル社会/カーボンフットプリント” ※20分/件×3件
14:20~14:30	休憩(10分)	
14:30~15:30 (60分)	<u>A2 ライトニング発表セッション①</u> “コミュニケーション/省エネサービス” ※10分/件×6件	<u>B2 ライトニング発表セッション②</u> “ビッグデータ/ライフスタイル” ※10分/件×6件
15:30~15:40	休憩(10分)	
15:40~16:40 (60分)	<u>A3 口頭発表セッション③</u> “住宅” ※20分/件×3件	<u>B3 口頭発表セッション④</u> “環境配慮行動” ※20分/件×3件
16:40~17:30	交流会	

※口頭発表時間(1件当たり): 発表15分、質疑応答5分

※ライトニング発表時間(1件当たり): 発表8分、質疑応答2分

■ プログラムの詳細

■ ルーム A

A1	口頭発表セッション①	
	スマートタウン/DR 司会：前真之（東京大学）	
	A1-1	スマートタウン居住者のエネルギー消費に関する実態調査 市村知輝（東京工業大学 環境社会理工学院 修士課程 修了）
	A1-2	家庭向けデマンドレスポンス実証実験 田中洋一（東邦ガス株式会社 技術研究所 課長）
	A1-3	GXによる脱炭素プラットフォーム 岩崎哲（株式会社アイ・グリッド・ラボ 取締役 CTO）

A2	ライトニング発表セッション①	
	コミュニケーション/省エネサービス 司会：八木田克英（東京大学）	
	A2-1	環境訴求マーケティングの効果 秋谷祐二（株式会社インテージ カスタマービジネスドライブ本部企画分析 2 部 環境分野アナリスト）
	A2-2	心理効果を用いた避難誘導表現による正常性バイアス抑制に関する研究 斉藤瑠加（早稲田大学大学院 創造理工学研究科）
	A2-3	北海道における高効率エアコン選択を促すメッセージ手法の検証 土屋友和（株式会社住環境計画研究所 研究員）
	A2-4	北海道における暖房の効率的利用を促すメッセージ手法の検証 小林翼（株式会社住環境計画研究所 研究員）
	A2-5	家庭エコ診断制度における WEB サービスを活用した普及促進 佐伯朗彦（地球温暖化防止全国ネット）
	A2-6	住宅のエネルギー管理からクリーンなピークリソース管理への進化～海外での家庭向け行動型プログラムから学びと考察～ 小林浩人（日本オラクル株式会社 Opower 日本統括）

A3	口頭発表セッション③	
	住宅 司会：日高一義（東京工業大学）	
	A3-1	CASBEE 健康チェックリストによる断熱改修動機づけに関する研究 坊垣和明（東京都市大学 名誉教授）
	A3-2	家庭用水素蓄電システムに対する太陽光発電実施世帯の考え方 加藤尊秋（北九州市立大学 教授）
	A3-3	住宅居住者の生活意識と窓及び窓付属物の運用状況に関する実態調査 辻果歩（東京大学大学院 工学系研究科 修士課程）

■ ルーム B

口頭発表セッション②	
サステナブル社会/カーボンフットプリント 司会：坊垣和明（東京都市大学）	
B1	B1-1 ドイツ滞在から探るサステナブル社会に向けたゲーミング開発 杉浦淳吉（慶應義塾大学 文学部 教授）
	B1-2 環境・サステナブルへ配慮のある商品やサービスに関する消費者の受容性 天野晴子（日本女子大学 家政学部 教授）
	B1-3 日本における 1990 年から 2020 年までの家計消費による炭素排出インベントリーの時間的変動 板明果（東北学院大学 経済学部 准教授）

ライトニング発表セッション②	
ビッグデータ/ライフスタイル 司会：杉浦淳吉（慶應義塾大学）	
B2	B2-1 ビッグデータを用いた空調機利用実態の解明と日本産業規格との比較 杉山弦太（東京都市大学大学院 環境情報学研究科）
	B2-2 2050 年ゼロエミッション社会実現のためのエネルギー利用実態の解明～電力ビッグデータの解析による家庭部門エネルギー消費の実態解明～ 本田智則（産業技術総合研究所 ゼロエミッション国際共同研究センター 主任研究員）
	B2-3 東京都北区における食品ロス削減に向けたリデュースクッキングの取り組み～リデュースクッキングレシピの開発と普及～ 赤石記子（東京家政大学 家政学部 准教授）
	B2-4 あなた自身が生まれ変わらせる PET ボトルリサイクル～外出先でも PET ボトル分別を促すためのリサイクルボックスをデザインする～ 高雄綾子（フェリス女学院大学 国際交流学部 准教授）
	B2-5 エネルギーを多く消費する世帯のライフスタイル 甲斐聡（株式会社インテージ）
	B2-6 小学生を対象とした対戦型の住環境カードゲーム教材の開発に関する研究 古田祥一郎（早稲田大学大学院 創造理工学研究科）

口頭発表セッション④	
環境配慮行動 司会：松葉口玲子（横浜国立大学）	
B3	B3-1 食の脱炭素化に向けた食行動変容の可能性～情報提供による菜食への意識変化の分析～ 木村宰（電力中央研究所 上席研究員）
	B3-2 家庭におけるごみゼロ生活の実測調査及びごみ削減の可能性～ごみが出ない、出さない生活にどこまで近づけるか～ 三神彩子（東京ガス株式会社 都市生活研究所 所長）
	B3-3 サステナブル時代の暮らし方「マインドフルエコライフ」の提案～セグメント別行動変容促進のポイントを探る～ 笹岡恵梨（東京ガス株式会社 都市生活研究所 研究員）

■ ポスター発表

P-1	省エネルギーと電子レンジの効果的活用の検討～使用方法及びあたため直しに関する調査～
	荒木葉子(新渡戸文化短期大学 食物栄養学科 准教授)
P-2	生活者の環境意識・行動の現状と意向に関する調査～「意識してがんばる」から「意識せずに自然にできること」へ～
	木村康代(東京ガス株式会社 都市生活研究所 研究員)
P-3	スマートフォンアプリによる省エネルギー効果のフィードバックに関する研究
	梅原周(九州大学大学院 人間環境学府 大学院生)
P-4	ナッジを都市に織り込む～まちなかなッジプロジェクトの取組～
	植竹香織(ポリシーナッジデザイン 代表)
P-5	省インフラで脱炭素・資源循環のまちづくりを～地域コミュニケーションでNIMBYをYIMBYに変えた事例から～
	福田一成(アズビル株式会社 ビルシステムカンパニー マーケティング本部 シニアアドバイザー)
P-6	建築とまちづくりにおけるSDGsカードゲーム型教材の開発～建築とまちづくりにおけるSDGsカードゲーム型教材の開発～
	関根海央(早稲田大学大学院 創造理工学研究所 大学院生)
P-7	ゴミ箱ラベルによるゴミ分別・ゴミ削減
	三浦輝久(電力中央研究所 グリッドイノベーション研究本部 上席研究員)
P-8	スイッチ近傍への情報設置による不在時点灯時間の短縮化
	糸井川高穂(宇都宮大学 助教)
P-9	幼稚園の園庭における幼児レベルの屋外温熱環境に関する研究
	范理揚(日建設計総合研究所 研究員)